

平成26年度第8回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成26年12月24日（水） 午前10時30分～11時30分
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 桑原 安江, 大森 憲,
位高 光司, 山本 壯太, 能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

1 開会

2 議事

(1) 地方独立行政法人京都市立病院機構職員給与規程の改定について

- 通勤手当引き上げの理由は何か。
→・ 京都市が引き上げを実施するため、これに準じて機構においても引き上げるものである。
- 期末勤勉手当について、何ヶ月分の支給となるのか。
→・ 再雇用職員以外は年間3.95ヶ月分から4.10ヶ月分へ、再雇用職員は年間2.10ヶ月分から2.15ヶ月分へ変更である。
- 給与構造の見直しによる給料表の切替えに伴う経過措置とは何か。
→・ 給料表の改定による現給に対する保障である。

3 報告

(1) 損害賠償額（示談金）の決定について

(2) 経営状況月次（11月分）について

- 京北病院のアクティビティは漸減傾向にあったが、9月以降回復傾向に転じている。
→・ 例年冬場は患者が多く、増加傾向が続いている。
 - ・ 介護老人保健施設については、例年よりも低調ではあるが回復傾向である。
 - ・ 今後さらに地域包括ケア型の運営体制にすることが課題。
 - ・ 京北病院は外来診療単価が他施設よりも約2,000円低い。市立病院も同様の傾向である。指導料や管理料の算定がなされていないことがあることなどが原因である。
- 病床利用率が90%を超えるとベッドコントロールが困難になるのではないか。
→・ 毎日10時及び16時に看護部でベッド状況を把握し、コントロールを行っており、11月からは特に高い利用率を維持できている。
 - ・ なお、緊急入院については、夜間は当直師長が行い、日中は医事課が対応し、両者の連携もスムーズにうまくいっている。
 - ・ 満床で救急受入を断ることはない。
 - ・ 入院と退院を適切に管理することが重要で、退院の目途を立て、各種指導等も計画的に行うことや地域に繋げる準備を整えることも積極的に行っている。

4 その他

- 病院整備はいつ終わるのか。
→・ 1月の院内保育所を移転後、旧保育所を取り壊し、職員駐車場を整備する。年度内に

すべて終える予定である。

- ・ 1月に北側の入り口及び駐車場が整備され、患者さんにとってさらに利用しやすくなる。
 - ・ 救急・災害医療支援センターも1月中に完成する。
- 駐車場は何台収容できるのか。他施設の駐車場の利用やシャトルバスの運用はどうか。
- 来院者用駐車場は現在159台で、北駐車場の59台が加わり、計218台になる。
 - ・ 職員用駐車場は110台になる。
 - ・ これ以上の駐車場増設の予定はないが、シャトルバスの運用等については、今後利用状況等から検討する。

5 閉会